

生を得て老・病・死の過程を歩む私どもは何びとも、何かを失うが同時に何かを得るという生活を営み続けている。腎不全で血液透析を受けることになった人であれば、通常週3回・1回4時間の時間的な拘束を余儀なくされる。このことはその人の職務に影響を与えて、仕事の質の変更をきたさざるをえないことがありえよう。そのほかにも食生活上の制限や服薬の順守等々、このグループの人々は数々の禁止や奨励の諸事項を押し付けられる。

そのうえに個々の患者は、医療者が捉えにくい、それぞれで異なる内的な悩みを抱え込んでいる。しかし、現在、わが国で約32万人もの透析患者が治療を受け続けているという事実は、彼らが辛

い現実と直面しながらもしばむ心に鞭うちつつ、新たな生活を切り開いていったからであろう。透析生活を送りながら生き生きと過ごす患者を見聞することは決して稀有ではなく、脱帽する思いになることがある。つまり、私どもの生活は種々雑多な喪失・その故の喪失感に苛まされながらも、一方で、これに直接的・間接的な影響を受けて何かを逞しく獲得もしているのであろうと感じるのである。喪失を補うにふさわしい獲得を得ているか否かが、透析患者の日々の生活の基調を決定するのではあるまいか。この特集では、その支援に透析スタッフとして何に取り組むべきかを識者に考察していただいた。

(大平整爾)

2017年(Vol. 33)特集のご案内

- | | |
|---|------------------------------------|
| No.① 開かれた透析医療
—Integrated Care の具現化 | No.⑦ [増刊号] 透析患者の侵襲性治療 |
| No.② CKD 貧血ガイドライン
—二度の改訂を巡って | No.⑧ 予後改善を目指した透析医療 |
| No.③ 透析医療に携わる看護職の人材育成と
チーム創り | No.⑨ 透析医療における情報技術の進歩・展
開 |
| No.④ 透析患者の薬剤処方
—ポリファーマシーを考える〔特大号〕 | No.⑩ 維持透析患者の喪失感—理解・克服へ
の支援 |
| No.⑤ オンライン HDF—展開と課題 | No.11 開かれた CKD 看護の模索—意思決定
を支援する |
| No.⑥ 創造する透析医療—新たな modality へ
の期待と課題〔特大号〕 | No.12 透析患者向け治療食の最先端 |

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.33 No.10

© 2017 年 9 月 10 日発行
定価：(本体 2,400 円＋税)

年間予約購読料は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.co.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center Inc. ©2017, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541